

(様式 1-5)

会津美里町 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和 5 年 4 月 3 日時点

※本様式は 1-3, 1-4 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	戦国会津美里向羽黒山城魅力全開以心伝心事業	事業番号	A-1
事業実施主体	会津美里町	総交付対象事業費			16,422 千円
既配分額	8,019 千円	当該年度交付対象事業費			8,403 千円
経費区分ごとの費用					
一 地域の魅力向上・発信事業					
① 情報発信事業 小計 8,403 千円					
i) 風評動向調査 千円					
ii) 体験等企画実施 938 千円					
iii) 情報発信コンテンツ作成 7,465 千円					
iv) ポータルサイト構築 千円					
② 外部人材活用 小計 千円					
i) 企画立案のための外部人材の活用 千円					
ii) 地域の語り部の育成 千円					
二 関連施設の改修					
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修 千円					
風評の払拭に関する目標					
【アウトプット】					
① 戦国の天空茶屋モニターツアーの実施					
② 「信長の野望」御城印状を景品にしたスタンプラリーの実施					
③ 歴史系雑誌「歴史街道」裏表紙への連載					
【アウトカム】					
① R6.3 までの向羽黒山城跡専用サイト訪問者 平均 500 人/月×12 か月=6,000 人					
② R6.3 までの向羽黒山城跡訪問者を年間 3,000 人					
③ スタンプラリー実施者数=御城印状配付枚数 3,000 人					
事業概要					
事業実施主体	会津美里町				
主な企画内容	国指定史跡向羽黒山城跡と歴史ゲームのコラボレーションによる情報発信				
主な事業の実施場所	会津美里町内				
事業の実施期間	R04 年度～R07 年度				
企画内容					
【実施体制】					
① 実地主体：会津美里町					
② 連携団体及び役割分担					
(1) 会津美里町（実施主体）					
・ 会津美里町は、事業全体の企画立案と管理を行う。					
(2) 一般社団法人会津美里町観光協会（事業運営の統括管理）					
・ 会津美里町と連携し、主に事業運営を統括し、関係者との連絡調整やイベント等の事業の運営・管理を担う。					
【現状・課題】					

<現状>

- 震災以降、風評を払拭し、会津美里町に「来てもらう」ための様々な情報発信を行ってきたが、依然として会津美里町を訪れる観光客数は震災前の水準まで回復していない。

このため、これまで以上に効果的な風評の払拭と会津美里町の魅力を発信するための各種の対策が必要な状況であり、令和4年度から本事業を実施し、人気歴史ゲームと提携して、向羽黒山城跡専用サイトと山城案内アプリを開発し、本事業の基礎部分を構築してきた。

【参考】会津美里町観光客入込数

H22 2,076,310人

H31 1,564,730人

<課題>

- 会津美里町は観光資源として国史跡向羽黒山城を有しており、昨今の山城ブームの中で強力な誘客のためのコンテンツとなり得るところ、現状、これを活かせていない。

その原因として、

- ① ほかの観光地との差別化が図れていない。
- ② 効果的な情報発信ができていない。
- ③ 観光客の受入れに関して地域の様々な人材が活用できておらず、受入れ環境の整備ができていない。ことが考えられる。

【現状の課題に対するこれまでの取組】

- これまで以下の取組を実施。

- ① 会津美里町及び観光協会のホームページの観光ページの充実
- ② 「会津美里町観光百人衆」と呼称し、情報発信のための人材育成
- ③ 日本三大田植え祭りである「お田植祭り」など昔からの伝統行事による誘客
- ④ 新鶴ワインまつり、季節のあやめ祭りなど、イベントによる誘客
- ⑤ 日本遺産「会津三十三観音」など、寺社仏閣を巡らせるツアーの実施
- ⑥ 観光誘客を目的とした、ふるさと創生事業による温泉施設建設
- ⑦ 近隣市町村と連携しての首都圏へ、旅行会社等へのエージェント訪問

【事業実施により得られる効果】

- 昨今の山城ブームの中、誘客ターゲット層を「歴史ファン」「歴史ゲームファン」に絞って、当該ターゲット層の満足度を最大化するコンテンツを用意することで、既存の観光資源である向羽黒山城を活かした誘客を効果的に行うことが可能になる。
- また、複数年の計画的な事業展開により向羽黒山城をブランド化することで、事業終了後の持続的な誘客を可能とする。

【今年度事業における具体的な取組内容】

- ① 戦国の天空茶屋モニターツアーの実施

実施期間：R5.6月～R5.11月

実施体制：外部委託

概算費用：938千円

- 熟練ガイドにより向羽黒山城跡を散策し、かつての戦国大名たちも見たであろう、絶景ポイント「御茶屋場」で、日本茶の家元の野点により天空茶屋を楽しみ、地元の温泉や食材、金賞受賞の町内3つの酒蔵の日本酒を楽しむモニターツアーを開催する。

・定員は10名で、11月実施予定。募集は「歴史街道」でも実施するが、友好都市である台東区に協力をいただき、台東区の広報ホームページでも募集するほか、10月に浅草で開催する台東区との交流事業の中で、向羽黒山城をモチーフにした紙芝居を上映し、福島県と会津美里町、向羽黒山城跡を宣伝するほか、チラシを配って募集する。

モニターツアーの様子を雑誌「歴史街道」や台東区の広報やホームページに掲載することで、向羽黒山城跡の魅力の浸透を狙うとともに、都市交流の一環として台東区民へ会津美里町のアピールしていく。

・①から③事業により向羽黒山城跡への来客状況を計測するためにAIカメラを設置する。

- ② 「信長の野望」御城印状を景品にしたスタンプラリーやHP、ポスター等での情報発信による誘客

実施期間：R5.6月～R5.12月

実施体制：外部委託

概算費用：4,033千円

- 山城案内アプリの対象地域と機能を拡張し、AR拡張現実により山城全体を俯瞰できる機能とスタンプラリー機能の充実化を図る。

事業の展開に当たっては、コーエーテクモゲームス社とのコラボレーションによる要素を盛り込み、ゲームのキャラクターや音楽を駆使し、歴史ファンに対して訴求できるものとする。

- ・本丸や城門がわかりやすい平城に比べ、土塁など地形を利用した施設が多く、目視では分かりにくい山城をより深く理解できるように、アプリに AR 機能を搭載する。AR 機能により、山城全体を俯瞰して捉えることが容易になり、事前の地形把握や実際に今自分がどのあたりをいるかという位置情報の把握も簡単になる。そうすることで、向羽黒山城を知らない客層にも、イメージで山城の魅力を伝えることが可能になる。
- ・AR の位置情報やスタンプラリー機能を活用して、向羽黒山城跡や周辺エリアの飲食店や温泉施設等に設定した数カ所の GPS の座標を巡らせる。
- ・スタンプラリーのコンプリート達成者には、ノベルティ景品として、3,000 枚限定の「信長の野望」とコラボレーションした、オリジナル向羽黒山城御城印状をプレゼントし、特定のシリアルナンバーに該当した者には、限定の歴代城主キャラクター入りの御城印状を贈呈する。
信長の野望とコラボした御城印状は、会津美里町独自の取組で、他に実施している箇所はないため、大いに差別化が図られ、歴史ファンや「信長の野望」ゲームファンの食指を動かし、誘客に貢献すると思われる。
- ・蘆名、伊達、蒲生、上杉など、そうそうたる歴代城主の「信長の野望」キャラクターののぼり旗を山城の周辺に配置する。
- ・スタンプラリーと御城印状、のぼり旗を組み合わせることで、向羽黒山城跡のスケールの大きさを実感し、訪れた歴史ファンの琴線に触れ、満足度を上げるものになり、新規の誘客や2度3度のリピーターの創出につなげていく。
- この取組を広く効果的に喧伝していくために、専用サイト上で情報が更新されていくページの充実化も併せて行っていく。
- ・向羽黒山城や蘆名氏に関する歴史系ユーチューバーによる解説動画や、これらを舞台に設定した「信長の野望」のゲーム実況配信等、専用サイトの掲載コンテンツの充実を図る。
- さらに、「信長の野望」のキャラクターと向羽黒山城をコラボしたポスター等を作成し、PRを行う。
- ・作成したポスター等は、台東区の紙芝居講演で使用するほか、当町及び関連団体が首都圏を訪問するあらゆる機会を捉えて配布する。
※ 台東区の外、海ほたる、大宮駅の東日本連携センター等での配布を想定
- ・また、専用サイトに寄稿いただいている城郭考古学者の千田嘉博教授が所属する奈良大学など、大学の歴史研究サークルに送付し、当該サークルに加え、当該サークルを通じた SNS 等の二次的な情報発信により、歴史への関心を持つ層に向けて戦国時代会津美里町の向羽黒山城のスケールの大きさをアピールすることで、風評払拭し誘客の拡大を図ることとする。

③ 歴史雑誌「歴史街道」裏表紙への連載

実施期間：R5.5月～R5.11月

実施体制：外部委託

概算費用：3,432千円

- 毎月の発行部数が6万部と影響力のある歴史系雑誌である「歴史街道」の裏表紙に4回連載する。一般よりも歴史ファンに向けて、向羽黒山城跡と人気歴史ゲームである「信長の野望」をコラボレーションした記事を連載することで、日本最大級の広さを誇る難攻不落の向羽黒山城跡の魅力のより効果的なアピールを狙っていく。
- ・まずは手に取って読んでいただけるように、視覚的な効果を狙って、写真やゲームのキャラクターを配したシンプルな構図を想定する。
下段に専用サイトへ誘導するQRコードが掲載することで、より詳細に向羽黒山城跡を活用したスタンプラリーやモニターツアー、山城案内アプリなどの取組をアピールし、原発災害への風評を払拭するとともに、誘客に繋げていく。

【今年度事業における目標】※複数年度にわたって事業を実施する場合

- ① 戦国の天空茶屋モニターツアーの実施
- ② 「信長の野望」御城印状を景品にしたスタンプラリーの実施
- ③ 歴史系雑誌「歴史街道」裏表紙への連載

【今年度事業の実施により得られる効果】※複数年度にわたって事業を実施する場合

- ① モニターツアーを実施することで、実際に向羽黒山城跡を訪れた人の口コミを確認できるうえ、自分も実際に訪れてみようというモチベーションの造成に寄与する。
- ② 信長の野望の魅力を前面に出した向羽黒山城跡の御城印状をスタンプラリーの景品にすることで、2度3度の誘客効果が期待できる。山城案内アプリと専用サイトを拡張、充実化を図ることで、予習として知識を入れることが可能となり、実際に訪れた時に迷いのない行動に繋がり、満足度に貢献する。
- ③ 毎月約6万部の歴史系雑誌「歴史街道」の裏表紙に、4回にわたり掲載することで、広く歴史ファンに向羽黒山城跡を効果的にPRできる。

【次年度以降の取組】※複数年度にわたって事業を実施する場合

- 次年度以降は以下の取組を予定。

これらの取組を中心に、向羽黒山城をモチーフにした土産品やグルメメニューの開発、地場産業の本郷焼とのコラボ等、地域の事業者とも連携した取組を推進することで、会津美里町への観光客の一層の増加を図ることとする。

【R6 年度予定】

- 観光大使を委嘱し、向羽黒山城を形どった「山城名刺」を作成、配布を依頼。

※ 山城名刺には「信長の野望」のロゴと特設サイトに移行させる QR コードを印刷し、専用サイトへの誘導を図る予定。

【R7 年度予定】

- 山城シンポジウムの開催。

【新型コロナ感染拡大防止対策】

事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、国・実施主体する地方公共団体・（イベント開催など実施主体と開催地が属する地方公共団体が異なる場合には、開催地が属する地方公共団体）が発出する通知・ガイドラインに則った形で事業を実施いたします。

<具体的な対策>

- ・入場者の AI 検温モニターによる検温チェック、体調確認
- ・新型コロナウイルス感染症対策を呼び掛けるポスター、チラシ掲示